

狂言謡の一人稽古を支援するシステムの開発

塩澤隆允[†] 河村辰也[†] 神山健太[†] 綾井 環[‡] 野島伸仁[†] 吉野純一[†] 市村 洋[†]
 サレジオ工業高等専門学校[†] 有限会社カラビナシステムズ[‡]

1. はじめに

筆者らは日本伝統芸術・芸能の普及のためにかな文および狂言を事例とした IT 援用法を研究している[1][2]. 特に狂言の稽古は、口伝・伝承による師匠と弟子の対面指導で行われてきている。また、グローバル化時代にあって技術者が技術のみではなく、教養として日本伝統芸術・芸能の造詣の深さを求められることが多くなってきている。造詣を深めるために、一人稽古法は如何にあるべきか、そのための有効な IT 援用は如何にあるべきか(狂言師の一通りの教えを受けた後)を研究している。狂言の稽古は、基本的に所作と台詞からなる。

ここでは、台詞特に謡の IT 援用の稽古法を報告する(所作の研究結果は[3]を参照されたい)。

2. 狂言謡および台詞一人稽古システム

2. 1. 謡の稽古法

狂言の稽古は小舞(謡をうたいながら舞う)から始める。現時点のその謡の稽古および普及は次の通りである。

- 1) 狂言師自身の稽古法：能の謡本[4]を基に行っている(図 1)。
- 2) 能楽師 TV 教養講座：洋楽に類似した譜面を節付(図 2)[5]し、それを基に教養の普及活動を行っている。

この方法を基に IT 援用狂言謡の一人稽古法を提案する(稽古のためのユーザインタフェイスはすでに報告済みである[6])。

2. 2. IT 化の狂言師の緒元

筆者らの研究には、協同研究者として大蔵流善竹家の野島狂言師が加わっている。そのプロフィール、対象とする演目をそれぞれ表 1 (a)、(b)に緒元として示す。

2. 3. 設計の基本的考え方

現時点の謡の稽古および普及法に立脚して、IT 援用狂言謡の設計の基本的考えは

A Development on Self Practice of *Kyogen Utai* using IT
 Takayoshi Shiozawa[†], Tatsuya Kawamura[†], Kenta Kouyama[†],
 Kan Ayai[†], Nobuhito Nojima[†], Junichi Yoshino[†],
 Hiroshi Ichimura[†]
 Salesian Polytechnic[†], Carabiner Systems Inc.[‡]

- 1) 能(観世流)の謡本の節付記号を活用
- 2) 能の普及を意図した横書き譜面を参考とする。

この観点から能の謡本[4]の記号を類別すると、音程記号(上・中・下)、付点記号(一、二、一ア、etc)等多数存在する。その一部を表 2 に示す。稽古対象者のレベルに応じて、その記号を選ぶ。一方譜面は、能普及のための西洋音楽と同様に横書き譜面とする。

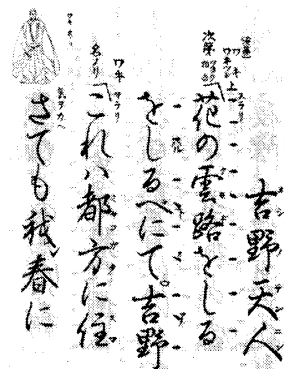


図 1. 能謡「吉野天人」例

羽衣 (ヨウイ) (ヨウイ吟)

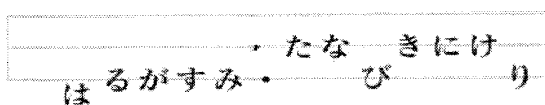


図 2. 能謡「羽衣」譜面例

表 1. 野島狂言師経歴

(a)狂言師プロフィール		(b)演目緒元	
項目	内容	項目	内容
狂言流派	大蔵流善竹家	演目名	盃
経験年数	25 年以上	長さ	約 1 分
稽古回数/月	1~3 回程度	レベル	入門曲

表 2. 能謡の記号例

事例	記号	読み	意味
不	上	上音	じょう 上で謡う
奥	中	中音	ちゅう 中で謡う
へ	下	下音	げ 下に下げる
雲	—	ごま点1	そのままの音の高さで謡う
の	—	ごま点2	音を下げたで謡う
の	—	ごま点3	音を伸ばす
の	—ア	ごま点4	拍子にあたる

3. 狂言謡節付表現エディタ

前述の設計指針に基づき、狂言師が、狂言を教養としたしなむ者を対象とし、一人稽古で利用する狂言謡の譜面を制作するための狂言謡節付表現エディタを提案する(図3)。

謡エディタは図3に示す通り画面を次の5分割の構成とする。

- ・メニュー領域(①)
- ・狂言振り帳表示領域(②)
- ・譜面操作領域(③)
- ・補助領域(④)
- ・記号選択領域(⑤)

これら領域にはそれぞれ次の特徴を持たせる。

① メニュー領域

対象演目の表示、音程・付点記号、全譜面表示、録音・再生等の機能のメニュー領域である。例えば、「演目」をクリックすると狂言振り帳表示領域に狂言自動化振り帳機能[3]で制作された謡(台詞も含む)と所作が表示される。

② 狂言振り帳表示領域

指定された演目が表示され、譜面化した部分の文章をドラッグ指定すれば自動的に、譜面操作領域(③)に歌詞が表示される(スクロールバーの移動により歌詞の全ての領域が表示できる)。

③ 譜面操作領域

譜面を一行ごとに編集する領域である。まず、②で表示した歌詞の各文字をクリックし、譜面上に反映させる。次に、音の高低・強弱・長短を編集(節付表現)していく。音の高低は、上段・中段・下段の三線を目安に文字を配置する。音の強弱は、太い字・細い字等で表現する。音の長短は、記号選択領域から付点記号を選択することにより表現する。全ての謡の節付が一応終了し、「全譜面」を確認・訂正したい場合には、メニューのそれをクリックすればよい。また、完成後にその謡を録音できる。

④ 補助領域

能の謡本で表現されている記号の使用事例、狂言の所作の記録映像および録音等を必要とした時に表示する領域であり、譜面制作の支援をする。

⑤ 記号選択領域

記号の種類一覧から記号をクリックすることにより、譜面上に記号を反映させる。すなわち、歌詞に謡としての「音程」、「強弱」、「付点」を付けるための記号領域である。

4. おわりに

本稿では、狂言師の謡の稽古法およびその普

及活動の現状を把握し、能の謡の節付記号を整理統合し、口伝・口述である謡一人稽古に、IT援用法を提案できた。今後は、提案したソフトウェアの開発を行っていく。

本研究は、文部科学省科学研究補助基金基盤研究(B)「19300289」の支援を受けて行っている。関係者各位に深く感謝する。

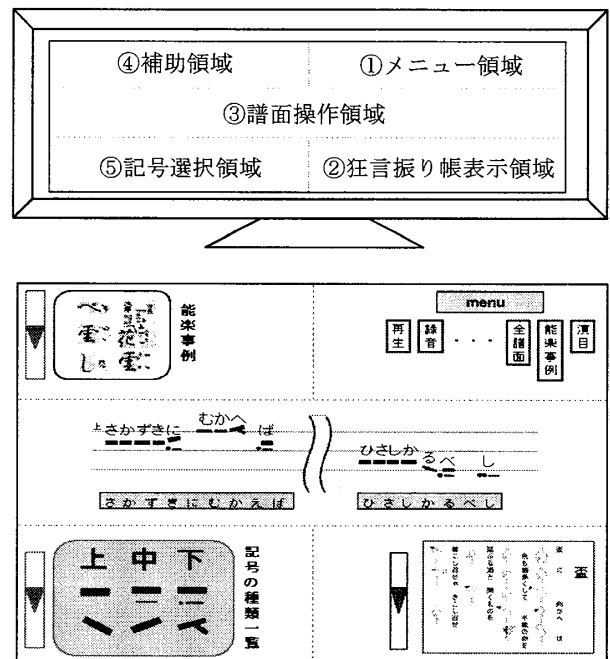


図3. 謡エディタのイメージ図

参考文献

- [1]Kenta Kouyama et al. : A Study on Self Practice Navigation System for the “Kana” Strings, 12th International Conference KES2008, Zagreb Croatia, LNAI5177(Springer), pp.417-424 (2008.09)
- [2]Kan Ayai et al. : A Study on applying IT to lessons of “Komai” Short dance, part of “Kyogen” a Traditional Japanese Drama, ”Emotion Research in Practice” International Symposium for Emotion and Sensibility(IESE2008), Proceeding KAIST, 4D, pp.318-324(2008.06)
- [3]河村辰也ら ; Motion Capture 狂言所作 3D モデルの振り帳への変換方式について, 2009 春季情報処理学会全国大会, 2 項(2009.03 発表予定)
- [4]観世左近 : 大成版観世流初心謡本上, 檜書店, (1978)
- [5]野村四郎 : 仕舞入門Ⅱ, 日本放送出版協会, p.74-77(1990)
- [6]塩澤隆允ら : 狂言謡の一人稽古を支援するシステムに関する研究, 八王子産学公連携機構第 8 回研究成果発表講演会要旨集, p.156-157